

指針第 1 号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,171	t-CO <sub>2</sub>
① （温室効果ガス 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふつ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふつ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		1,171	t-CO <sub>2</sub>

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	1,171	t-CO <sub>2</sub>	1,136	t-CO <sub>2</sub>	3.0

項目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>	

(2) 目標設定の考え方

令和6年度のco2排出量を令和7年度～9年の3年間で1年間1%×3で3%削減する。
---

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷房時は28℃設定、暖房時には20℃設定を目標として各テナントに協力を依頼する。</li> <li>・クールビズ、ウォームビズの推奨。</li> <li>・ブラインドをこまめに調整し、空調の効率を改善させる。</li> <li>・空室のフロアの共用部は空調切を徹底する</li> </ul>	
エネルギー・省資源の行動の実践・照明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用していない部屋の消灯を徹底する。</li> <li>・昼休み、時間外の消灯を徹底する。</li> </ul>	
エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン、コピー機を使わないときはスイッチを切る、スリープモードにするよう徹底する。</li> <li>・充電器など常には使用していない機器はコンセントから抜いておく。</li> </ul>	
各テナントへの省エネルギー・省資源への啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター掲示、啓発文書を配布する。</li> </ul>	
ビル内の工事についての温室効果ガス排出抑制の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の適切な分別とリサイクルを徹底する。</li> <li>・照明・空調、仮設電源のON/OFF及び使用エリアの管理を行い、無駄なエネルギーを使用しないように現場の管理を行う。</li> </ul>	

## 指針第1号様式

### (2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

#### ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	100 %

#### イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

世界情勢から令和7年～令和9年の非化石エネルギーの安定供給の先行きがまだ不透明な為、現状維持の25%を維持し令和10年度以降に電力の非化石化を目指す方針である。但し非化石エネルギーの安定供給の先行きが見いだせた場合は前倒しで非化石電力を導入する事も検討する事とする。

### (3) 環境価値（クレジット等）の活用

現状ビル全体の電気使用量の25%をグリーンエネルギーで賄っている。前段にも述べたように非化石エネルギーの安定供給量が見込めた場合はその比率を増やしていく予定。

### (4) その他の地球温暖化対策に係る措置

- ・コピー用紙の両面・裏面利用により、用紙の削減をして廃棄物の排出抑制を行っている。
- ・用紙の使用をできるだけ避け、データでの保存・保管を行っている。
- ・不要用紙や機器は、適切な分別とリサイクルを行っている。
- ・廃棄物のリサイクル化を啓蒙してゴミを減らす。

### (5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

- ・業務時間の効率化を意識し不要なエネルギーの使用を抑制する。